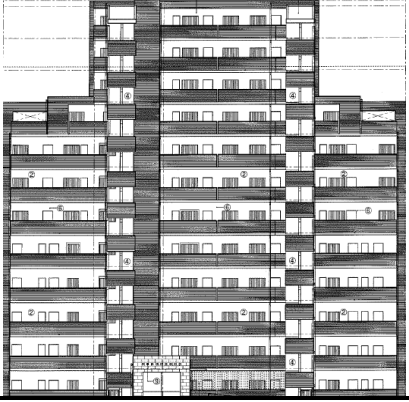


CASBEE®

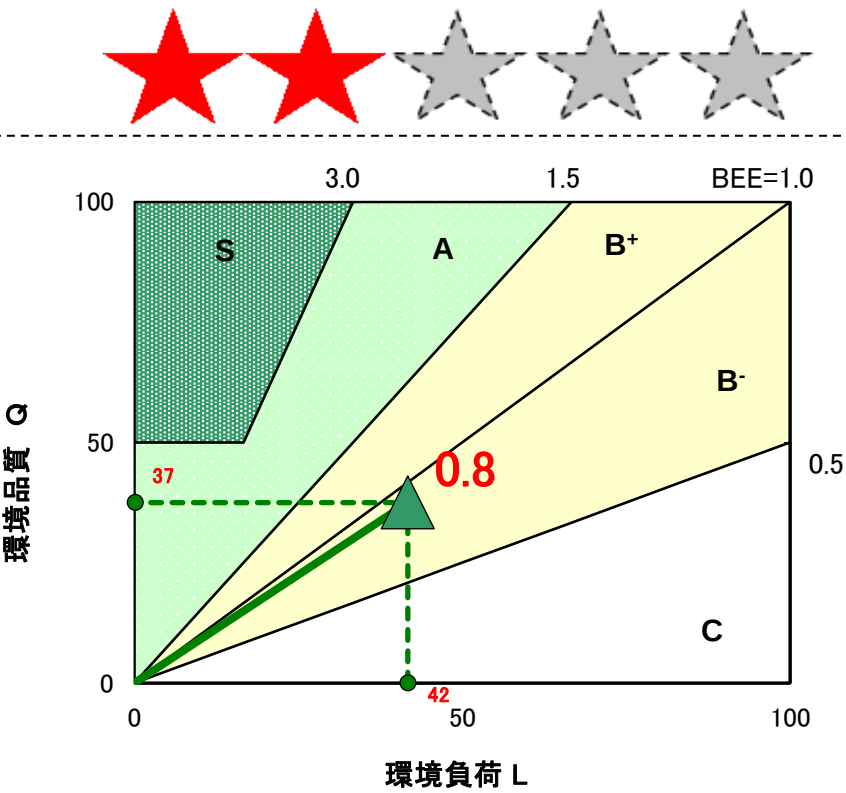
熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)国府2丁目マンション新築工事	階数	地上12F	
建設地	熊本県熊本市中央区国府2丁目268	構造	RC造	
用途地域	市街化区域、準防火地域、指定なし	平均居住人員	186 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年10月7日	
敷地面積	3,069 m ²	作成者	柳田	
建築面積	437 m ²	確認日	2019年10月11日	
延床面積	3,863 m ²	確認者	橋本	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 0.8

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

67%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

69

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

79.0

65.0

55.0

67.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	    
80点以上100点未満	   
60点以上80点未満	  
40点以上60点未満	 
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

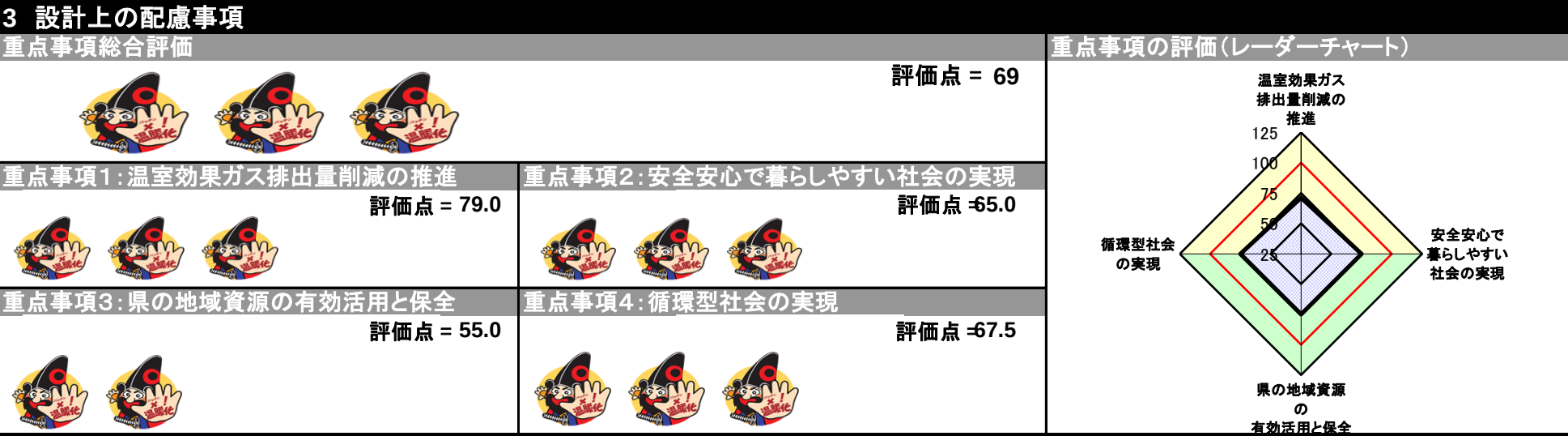
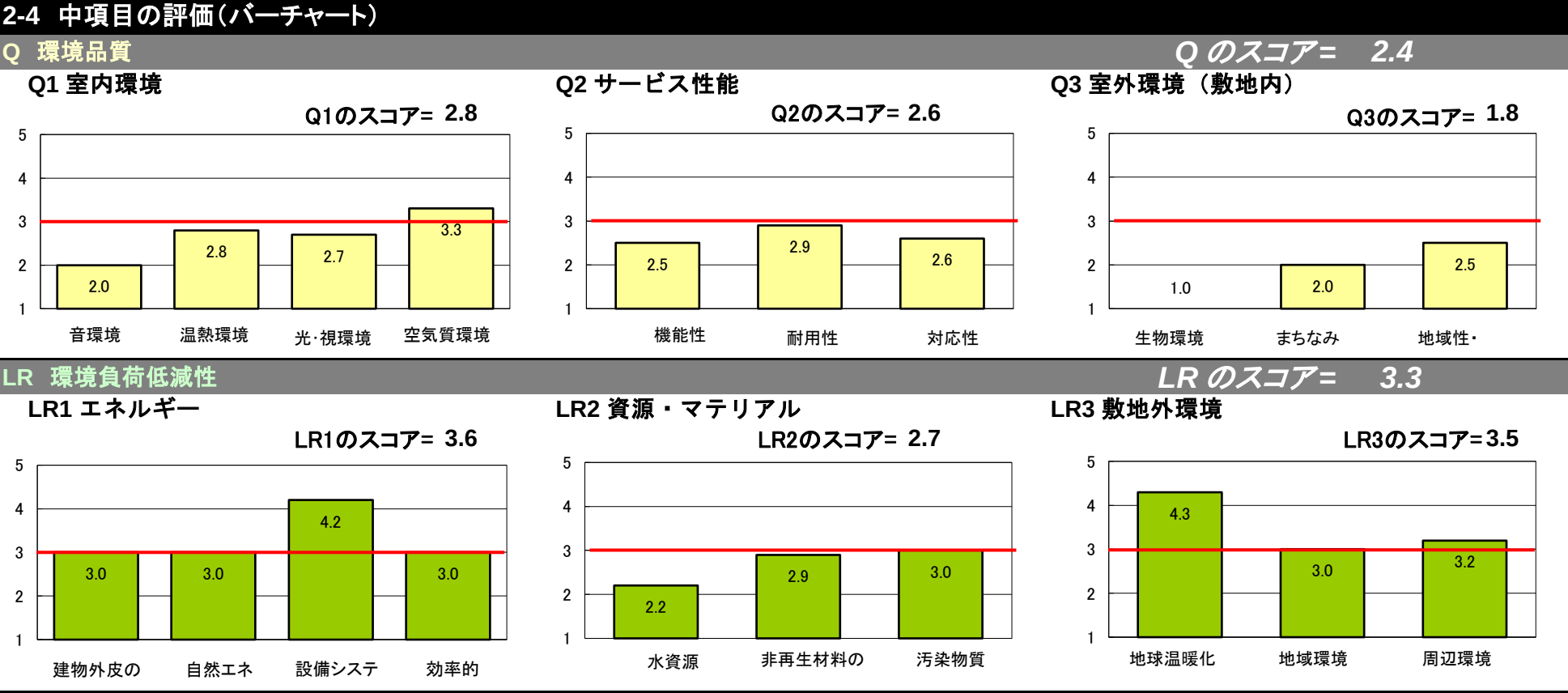
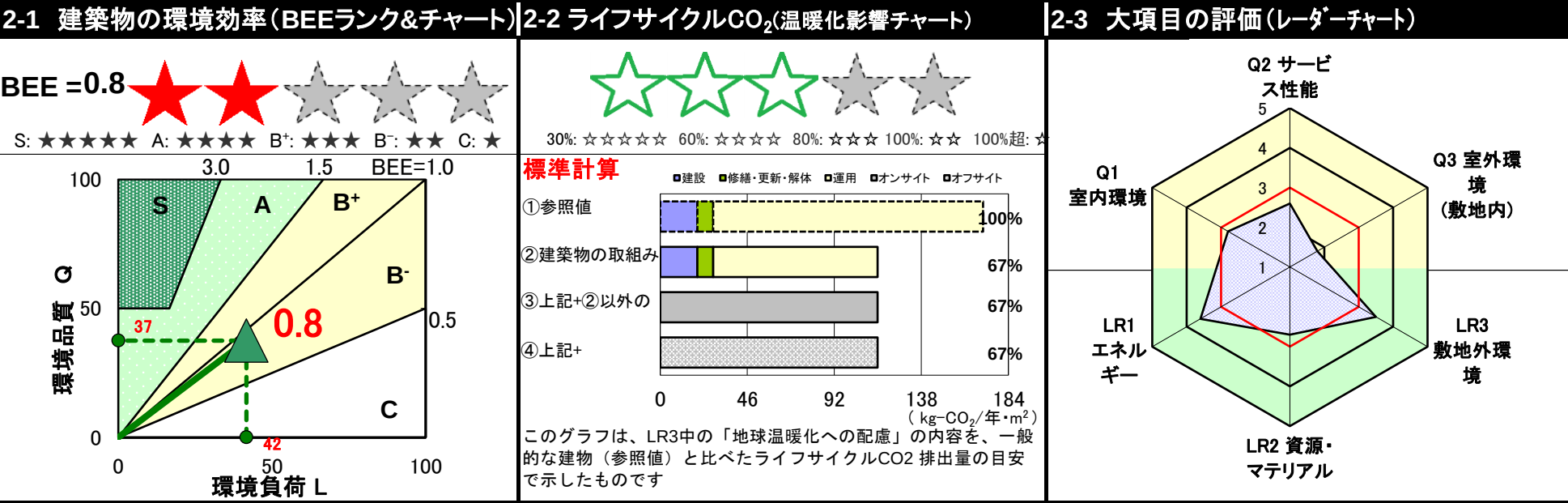
Sheet : 1/5

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)国府2丁目マンション新築工事	階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市中央区国府2丁目268	構造	RC造
用途地域	市街化区域、準防火地域、指定なし	平均居住人員	186 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年10月7日
敷地面積	3,069 m ²	作成者	柳田
建築面積	437 m ²	確認日	2019年10月11日
延床面積	3,863 m ²	確認者	橋本



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境					0.40		-	2.8
1 音環境				2.0	0.15	2.0	1.00	2.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				1.0	0.50	1.0	0.50	
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	1.0	0.60	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.40	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				1.0	0.35	3.0	1.00	2.8
2.1 室温制御				1.0	1.00	3.0	1.00	
1 室温				-	-	-	-	
2 外皮性能				1.0	1.00	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				-	-	-	-	
2.3 空調方式				-	-	-	-	
3 光・視環境				3.3	0.25	2.7	1.00	2.7
3.1 昼光利用				4.2	0.30	2.5	0.50	
1 昼光率		共用部(エントランス)2.5%≦12.7% 専用部(C1タイプLDK)0.5%≦0.7%<0.75%		5.0	0.60	2.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.2	0.25	3.3	1.00	3.3
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.6
1 機能性				2.2	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上り材の補修必要間隔				1.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上り材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:B 雑排水:B 汚水:B		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.5	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.25	-	-	
3 電気設備				3.0	0.25	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.25	-	-	
5 通信・情報設備				2.0	0.25	-	-	

3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.6	1.00	2.6		
3.1 空間のゆとり			BタイプLDK:0.1≦0.28<0.3	-	-	2.2	0.50			
1	階高のゆとり			-	-	1.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			-	-	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50			
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-			
1	空調配管の更新性			-	-	-	-			
2	給排水管の更新性			3.0	0.25	-	-			
3	電気配線の更新性			3.0	0.13	-	-			
4	通信配線の更新性			3.0	0.13	-	-			
5	設備機器の更新性			3.0	0.25	-	-			
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.25	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	1.8		
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0		
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.3		
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6		
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0		
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.89	4.2	0.50	-	-	4.2		
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価				-	-	-	-			
4.1	モニタリング			-	-	-	-			
4.2	運用管理体制			-	-	-	-			
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-			
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-			
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-		-	2.7
1 水資源保護					2.2	0.20	-		-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.60	-	-	2.9		
2.1 材料使用量の削減			・躯体と仕上げ材が容易に 分別可能(GL工法)	2.0	0.10	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				5.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-			
1	消火剤			-	-	-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00	-	-			
3	冷媒			-	-	-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5		
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:67%	4.3	0.33	-	-	4.3		
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0		
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-			
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-			
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-			
3	交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-			
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			光害対策ガイドラインの取扱いの過半を満足、広告物照明なし	3.0	0.40	-	-			
1	騒音			3.0	1.00	-	-			
2	振動			-	-	-	-			
3	悪臭			-	-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-			
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-			
2	砂塵の抑制			-	-	-	-			
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周辺の住宅地の為、12階建ての東西側を9階までとし日影に配慮しています。また、北側、と南側の隣接する住宅の敷地境界に目隠しフェンスを設ける、共用灯の深夜の明るさを調整するなどしプライバシーの確保をしています。

Q1 室内環境

- ・ F☆☆☆☆建材の仕様

Q2 サービス性能

- ・ 入居者の多様な家族構成、ライフスタイルに合わせ7タイプの住戸を設けています。
 - ・ バリアフリー対応として 1階エントランスにスロープの設置。
 - ・ 出勤時の混雑に対応できる様、EVは13人乗りとし、昇降速度の速い仕様としています。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 敷地内の駐車場は透水性舗装、緑化ブロック、浸透柵の設置等、雨水の浸透性を高めた

LR1 エネルギー

- ・ 住戸のサッシにペアガラスを採用し、断熱及び遮音性を高めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 断熱材はすべてノンフロン材を採用。

LR3 敷地外環境

隣接した敷地に駐車場を整備し、利便性の向上に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)国府2丁目マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		69
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				79	0.40	31.60
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				55	0.20	11.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数